

令和5年度授業改善推進プランの評価(2学年成果と課題) 文京区立第三中学校

成 果 と 課 題	
国語	授業への姿勢や漢字の練習は(ノート指導、小テスト)は、習慣となりよく取り組んでいる。また、身近な課題を掲げ、200字の作文を10分で書ききる活動を継続したことで、書くことへの苦手意識が払拭された。一方、読解の力があるにも関わらず、発表することに関しては、やや消極的に感じられる。文法や古典の学習においても自信をもって取り組めるように、ICT機器の活用を通じて意見交換や話し合いの場を設定することを今後の課題にしたい。
社会	教科書を使用して、文章や資料を読み取る力が付くように指導を重ねてきたので、多くの生徒が力を付けた。今後も文章や資料を読み取る力を指導していくとともに、小テストにより学習したことがらを復習させることで、知識の定着を図るようにしていく。電子黒板を使用して、生徒の関心を高めるよう工夫した。学習した事柄から、グループで話し合い考えられる課題を見つけ、タブレットを使用してまとめる力を付けさせた。今後も話し合いの機会を増やす学習を工夫し、指導していく必要がある。
数学	授業では、小テストを使い補習では、ワークを使って遅れ気味の生徒のフォローをした。進捗と量を適宜に調整し全体的な定着を見ていった。その甲斐あって定期テストは好成績であった。ICT機器の活用をもっと進めていきたい。
理科	実験・観察に意欲的に取り組み、実験操作などの技能を習得し、実験結果をグラフ化するなどして、規則性を見だし考察し、レポートにまとめることで思考力・判断力・表現力を高めることができた。復習に繰り返し取り組み、基礎的・基本的な知識を身に付けさせた。今後は定着に時間を要する生徒に、より一層の個別指導を心掛ける。
音楽	主体的に学習に取り組むことができる生徒が多いが、パートリーダーとして周りを引っ張っていかうとする生徒がまだ少ない。パート内での意見交換やアドバイスをし合う活動を通して、互いの考えを認め合うことでそれぞれの自信を育て、リーダーを育成していきたい。また、鑑賞曲についての紹介文や批評文を書く活動において、知覚、感受したことを自分の言葉で表現することに課題のある生徒が一定数いる。A評価の生徒の文章を共有することや、教師の助言を参考に、自分の言葉で根拠をもって記述することができるよう指導していく。
美術	授業や課題に対して前向きに意欲的に取り組む姿勢が増し、ねらいを意識しながら主体的に学習に臨む生徒がより一層増えてきた。平面構成や切り絵の彩色では、配色効果や構成美の要素など今まで学習した内容や知識を活用し、表現豊かに作品を仕上げた。ポスターでは時間を掛けて取り組み創意工夫した作品が多く、多数がコンクールに入選し優れた作品が仕上がった。また、書画カメラを活用し、木彫の技法や表現方法などは視覚的に分かりやすく説明し、意欲的に彫りの技法を学ぶ生徒が増えた。今後はより発想を豊かに、創意工夫しながら制作することを支援し、知識及び技能の向上を図る。また、理解や制作に時間がかかる生徒に対して、今まで以上の個別指導に心掛ける。
保健体育	学習カードを活用し、授業の振り返る活動を取り入れた。特に、Teamsでの課題提出に切り替えたことで、評価規準を示すことにつながり、単に振り返るのではなく、記述のポイントを意識した振り返りにつながっている。一方、課題の提出状況は2極化しており、提出する回数が少ない生徒や課題の内容が不十分な生徒が一定数いる。この点については、授業での呼びかけなど意図的な働きかけがこれまで以上に必要と考える。また、各単元における習得させたい動作のポイントを明確にし、繰り返し練習する機会を設定した。
技術	電子黒板の活用により、作業の具体例と見本を提示した。協働活動において、引き続き、コラボノートの活用を行ったことで、ものづくりに取り組む積極性と技術力が向上させることができた。個人で考えさせることを行わせ、全員の意見をお互いに見た上で、こちらからの最適解を伝えるようにしたことで、個人の課題解決能力が向上した。他の作品の分析力、意見発表の力の向上もみられた。課題としては、いろいろな場面での最適解を考える時間をできるだけ多くとれるように、カリキュラムを考えていくことにある。次年度は、自分が考えていくことをさらに深めさせると共に、作品製作の工夫を考えさせることで、実習に取り組ませたい。協働活動においては、コラボノートの活用を行っていく。次年度は隔週の授業となるので、1回の授業の大切さを今以上に考えさせ、振り返りシートによる振り返りをさらに徹底させ、授業に参加するように心がけさせていく。
家庭	衣生活領域ではスウェーデン刺しゅうを実習した。知識・技能を定着させるうえでICT機器を積極的に活用して、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すことができた。毎回の作業工程を映像としてみせることで、ねらいが明確になり、作業効率をあげることができた。また、日本の伝統や文化の継承・発展についても学べるような実習を取り入れた。食生活領域では、生活様式が多様化しているため、一人ひとりの生徒が異なる生活課題を解決するには、生徒自らが自分の生活の様々な問題の中から課題を設定し、その解決方法を検討し、計画を立てて実践するとともに、その結果を評価・改善することが繰り返し求められると感じた為、そのことに沿った授業案を考える必要がある。
外国語	自作のICT教材を活用し、新出文法を聞くことにより理解させ、繰り返し発話させ、書かせることにより定着させた。週に1回程度単語テストを行い、間違えた単語を練習させて提出させることを繰り返し行った。友達やALTとの会話、教科書の各パートや各単元末に考えたことを話したり書いたりする活動、読解問題やリスニング問題に取り組ませることを継続して行い、思考力・判断力・表現力を高めさせる。授業、ALTとの会話、パフォーマンステスト、定期考査の振り返り等を行わせることで見通しをもって学習させることを継続する。